

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL名港弥富Ⅱ新築工事	階数	地下0階、地上3階
建設地	愛知県弥富市駒野町	構造	RC造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	460 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年5月 竣工	評価の実施日	2022年4月4日
敷地面積	53,021 m ²	作成者	伊藤 麻也
建築面積	30,516 m ²	確認日	2022年4月4日
延床面積	78,267 m ²	確認者	伊藤 麻也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 77% (46 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 77%

④ 上記+: 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 4

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 2

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	弥富市に建築される3階建ての物流倉庫である。周辺の環境に配慮し、空地部分は積極的に緑化を図っている。	その他
Q1 室内環境	・評価対象外	Q3 室外環境(敷地内)
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・高い階高の確保、積載荷重の割増により、対応性に配慮している。	・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・高温排熱機器を設置しないことで、温熱環境の向上に配慮している。
LR1 エネルギー	・LED照明等の高効率な設備機器を導入している。	LR3 敷地外環境
LR2 資源・マテリアル	・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・リサイクル材やユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	・燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。 ・深夜の滅灯等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.4	
Q1 室内環境									
1 音環境				-	-				
1.1 室内騒音レベル				-	-				
1.2 遮音				-	-				
1 開口部遮音性能				-	-				
2 界壁遮音性能				-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				-	-				
2 温熱環境				-	-				
2.1 室温制御				-	-				
1 室温				-	-				
2 外皮性能				-	-				
3 ゾーン別制御性				-	-				
2.2 湿度制御				-	-				
2.3 空調方式				-	-				
3 光・視環境				-	-				
3.1 昼光利用				-	-				
1 昼光率				-	-				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				-	-				
3.2 グレア対策				-	-				
1 昼光制御				-	-				
3.3 照度				-	-				
3.4 照明制御				-	-				
4 空気質環境				-	-				
4.1 発生源対策				-	-				
1 化学汚染物質				-	-				
4.2 換気				-	-				
1 換気量				-	-				
2 自然換気性能				-	-				
3 取り入れ外気への配慮				-	-				
4.3 運用管理				-	-				
1 CO ₂ の監視				-	-				
2 喫煙の制御				-	-				
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.8	
1 機能性				-	-				
1.1 機能性・使いやすさ				-	-				
1 広さ・収納性				-	-				
2 高度情報通信設備対応				-	-				
3 バリアフリー計画				-	-				
1.2 心理性・快適性				-	-				
1 広さ感・景観				-	-				
2 リフレッシュスペース				-	-				
3 内装計画				-	-				
1.3 維持管理				-	-				
1 維持管理に配慮した設計				-	-				
2 維持管理用機能の確保				-	-				
2 耐用性・信頼性				3.3	0.50			3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		溶融亜鉛メッキ鋼板・フッ素樹脂塗装断熱サンドイッチ金属パネル		5.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		シリカ系コンクリート浸透性表面強化材仕上げ		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷媒:CUP、給水:VL・PEP、排水:VP		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.0	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上		5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1		5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり	地震・架構用も含め50%以上の割増		5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性	構造材・仕上げ材共に痛めずに更新・修繕が可能		5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性	構造材・仕上げ材共に痛めずに更新・修繕が可能		5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	まちなみ調和に配慮した景観計画		4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.79		5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	BPI _m =0.43		5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	-		1.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	-			-		-	
4.2 運用管理体制	-			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水	自動水栓・節水型便器等を採用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60		-	3.7
2.1 材料使用量の削減	F.T.Pile工法の採用等取組み4つ		4.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	内部階段のビニル床タイル/事務室の天井ボードに使用		4.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用		5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1 消火剤	-		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロンの発泡剤を使用		4.0	0.50		-	
3 冷媒	-		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.7
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率77%		3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮			3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置なし		5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	貯留槽および緑地による対策を実施。		4.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.9	0.33		-	3.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			5.0	0.40		-	
1 騒音	現行の規制基準より大幅に抑制		5.0	0.50		-	
2 振動	現行の規制基準より大幅に抑制		5.0	0.50		-	
3 悪臭	-		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制	-			-		-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画		4.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 屋光率															
屋光率 -															
4.2.2 自然換気性能															
自然換気有効開口面積率 -															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
コンセント容量 - VA/m ²															
1.2.1 広さ感・景観															
天井高 - m															
1.2.2 リフレッシュスペース															
リフレッシュスペース - レストスペース -															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
想定耐用年数 - 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
想定必要間隔 30年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
想定必要間隔 20年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
想定必要間隔 15年															
3.1.1 階高のゆとり															
階高 6.05m															
3.1.2 空間の形状・ゆとり															
壁長さ比率 5.4%															
3.2 荷重のゆとり															
床荷重 19600 N/m ²															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
外構緑化指数 13% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
空地率 42% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 6% 舗装面積率 0%															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
BPI/BPI _m 0.79 断熱等性能等級 対象外 相当															
2 自然エネルギー利用															
自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年 ^{m²} 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%															
通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%															
3 設備システムの高効率化															
BPI/BPI _m 非住宅 0.43 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
特定調達品目 ビニル床タイル エコマーク商品 ボード 自治体指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
使用比率 0.0%															
3.2.1 消火剤															
オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2~3															
3.2.3 冷媒															
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 62% 隣棟間隔指標R _w 1.49															
地表面対策面積率 7.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積S _b 2.761m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 202.583m 基準高さH _b 21.722222m															
緑地 2.683m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²															